

財政健全化に向けた予算制度改革【概要】

財政の現状と課題

- わが国財政は危機的状況。国・地方の長期債務残高は778兆円、対GDP比は147.6%（2008年度末）と、先進国の中で最悪の水準。財政の中長期的な持続可能性を確保することは待ったなしの課題。
- 財政健全化は、継続性・一貫性をもって取り組むべき課題であり、立法府および行政府における予算制度のあり方にまで踏み込んだ改革が必要。

予算制度を巡る現状

これまでの取り組み

- ・国会における予算審議
- ・経済財政諮問会議を中心とする取り組み
- ・政策評価等の進展
- ・予算書・決算書の改革
- ・公会計制度改革によるアカウンタビリティの向上

財政健全化は一定の進展。
しかし、今後、社会保障関係費の増大など、多くの困難が待ち受けるなかでは、未だ不十分。

予算制度改革に関する提言

基本的考え方

- ・小選挙区制の導入や頻繁な国政選挙の実施といった政治体制を前提に、安定的かつ確実に財政健全化を進める仕組みが不可欠。
- ・そこで、立法府は、財政改革に関する中期的コミットメントを行政府の協力を得て行う。
- ・行政府（内閣）は、立法府によるコミットメントをベースに、毎年度の予算編成を行う。その際、政策評価結果の予算編成への反映度を高める仕組みを構築する。

立法府

行政府

当面の措置

財政健全化に係る中期的コミットメントの形成

- ・当面の財政構造改革の目標（5年間程度）について、政策遂行上必要不可欠な歳出増加に対応した財源確保を含め、「歳出歳入改革法」（仮称）の制定等により、一定のコミットを行う。
- ・当該コミットメントは、一般会計ベースでの基礎的財政収支黒字化、さらには国債残高対GDP比の安定的低下を目指すものとする。
- ・経済成長の維持、国際競争力の強化に必要な施策も盛り込む。
- ・経済社会情勢や財政健全化の進捗状況に対応し、定期的に改定。景気の大幅悪化等、止むを得ない限定的な事情が発生した場合への弾力条項を設定する。

優先政策事項に基づいた予算配分

- ・立法府が示した目標の範囲内で、政策の優先順位に基づいて分野別・分野内の予算配分を決定。
- #### 予算編成に役立つ評価ツールや手法の確立
- ・政策目標の数値化、分野横断的な政策評価体系の確立を進め、評価結果を一定のルールに基づき予算配分に反映。
 - ・会計データの電子化・データベース化により、財務諸表の作成作業の効率化、公表時期の早期化。
- #### 予算編成と政策評価の担当部局の連携強化
- ・経済財政諮問会議、財務省主計局、総務省行政評価局等が連携を強化。

将来的課題

継続的なコミットメントの形成

- ・一般会計の基礎的財政収支黒字化の達成後、債務の利払費までをカバーする財政収支の改善に向けた赤字縮減についてコミットを行う。

両院事務局の調査能力の強化

- ・衆議院事務局は、マクロ経済や財政収支見通しの検証等を行う。
- ・参議院事務局は、決算審査の充実に向けてサポート体制を強化。

政策評価の徹底

- ・分野間の比較による優先付けを含めた横断的な政策評価を徹底し、ゼロベースの観点に立った予算編成を目指す。

予算編成の体制の再構築

- ・予算制度と政策評価制度の連動を徹底させるため、体制整備を検討する。